HoLEP_逆行性一塊核出法

第98回日本泌尿器科学会総会で4月29日に発表
（演題番号：　VP-008発表形式：　一般ビデオ）

HoLEP：逆行性一塊核出法

済生会新潟第二病院
泌尿器科 吉水　敦・車田　茂徳

当院ではHoLEPを2006年７月より開始し2007年12月にある程度の手技を完成させ2009年８月末までに550例以上の症例に施行してきた。その特徴は日本で開発された剥離鉗子の手技を併用することにより腺腫を逆行性に一塊りとしてくりぬき膀胱内へ落とすところにある。レーザーのみの使用や灌流液に生理食塩水を使用することにはこだわらず止血・尿道切開には電気メスを使用している。尿道括約筋付近での腺腫剥離に剥離鉗子を使うことで尿失禁が予防でき安全にほぼ全周性の剥離面を決定できる。剥離鉗子の使用で手技はやや煩雑化するがその後レーザーで全周性に腺腫を剥離し一塊りで核出出来るので無駄な腺腫切開の必要が無くなり結果として手術時間の短縮や出血量を少なくすることが可能と考えている。当院のホームページで2008年５月に当院で行ったHoLEPの手術ビデオをノーカット版で掲載しているが今回はより改良した手技のビデオを供覧する。